

蛍光灯 実質製造禁止へ

20年度めど LEDに

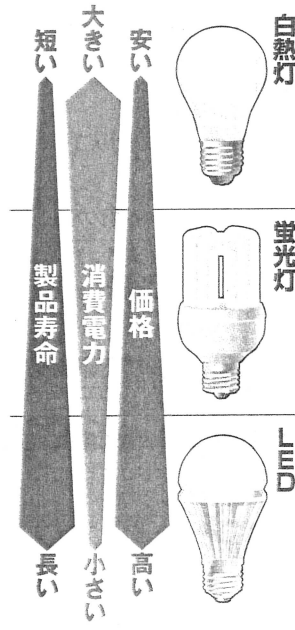
白熱灯も

政府は、エネルギーを多く消費する白熱灯と蛍光灯について、国内での製造と国外からの輸入を、2020年度をめどに実質的に禁止する方針を固めた。省エネ性能が高い発光ダイオード（LED）への置き換えを促す狙いだ。

安倍晋三首相が26日に財界幹部を集めて官邸で開く「官民対話」で、省エネ対策の一環として表明する。

今月末にパリで始まる国連気候変動枠組み条約締約国会議（COP21）に向けて、日本の温室効果ガス削減への取り組みを具体化する

3種類の電球には長所と短所がある



に、照明についての品目を一つにまとめることを盛り込む。LED並みの省エネを達成するのが困難な白熱灯と蛍光灯は、事実上、製造や輸入ができなくなる見通しだ。来年度にも省エネ法の政令を改める方針。

電球で比べると、LED電球の消費電力は、60ワット相当で白熱電球の約8分の1で、電球型の蛍光灯ランプよりも約3割低い。政府は、家庭などで使われている照明のほぼ100%を、30年度までにLEDにする目標を掲げるが、割高な価格がネックとなってLED

の比率は12年度で9%にとどまった。白熱灯と蛍光灯の製造と輸入ができなくなれば、国内市場で在庫がなくなった時点で、LEDへの置き換

えが急速に進み、量産効果でコストが下がることも期待される。ただ、割安な電灯を買う選択肢がなくなることになり、家計や企業の重荷になる可能性もある。電球型のLEDが登場したのは09年前後。11年の東日本大震災後に省エネ意識が高まって一気に普及した。日本の大手電機メーカーでは、東芝ライテック、パナソニック、日立アプライアンスが一般的な白熱電球の生産をすでに終えている。東芝ライテックによると、一般的なLED電球の

希望小売価格は、09年の発売時に約1万円だったが、いまは2千〜3千円台まで下がり、「店頭の販売価格はもっと安いだろう」（広報担当者）という。蛍光灯が中心だった天井用照明でも、10年ごろからLEDが売り出されている。ただ、照明器具そのものをLED対応に切り替える必要があることから、電球ほどはLED化が進んでいない。LEDへの移行を後押しする支援策を求める声が出る可能性もある。

（高木真也、南日慶子）

©朝日新聞社 2015年

46527号（日刊）

2015年（平成27年）

11月26日

木曜日

天気	6	9	12	15	18	21(時)
東京	☁	☁	☁	☁	☁	60
横浜	☁	☁	☁	☁	☁	60
千葉	☁	☁	☁	☁	☁	50
さいたま	☁	☁	☁	☁	☁	60
札幌	☁	☁	☁	☁	☁	60
仙台	☁	☁	☁	☁	☁	60
名古屋	☁	☁	☁	☁	☁	20
大阪	☁	☁	☁	☁	☁	60
福岡	☁	☁	☁	☁	☁	50



朝日新聞東京本社

本日の編集長＝佐野哲夫

〒104-8011東京都中央区築地5-3-2 電話03-3545-0131 www.asahi.com